

# 2023年（令和5年）度

## 瀬戸ラグビースクールの目標・指導方針

### 1. はじめに

私たちラグビー経験者（愛好家）は、ラグビーという競技の魅力をひとりでも多くの子どもたちに伝えたいという願いをもってスクールを開校しました。

ラグビーユニオンの国際競技連盟であるワールドラグビー（[www.world.rugby](http://www.world.rugby)）では、すべてのレベルでプレーする人たちのための基準として、品位、情熱、結束、規律、尊重といった5つのコアバリューを掲げ、ラグビー憲章としています。

これらのコアバリューが明文化される以前から、ラグビーには、勇気、忠誠心、スポーツマンシップ、規律そしてチームワークといった情緒的価値を高める作用があるとされてきました。

当スクールでは、そのような“ラグビーの魅力”を子供たちに伝えることを最上位の目的にし、運営を継承してきました。

ラグビーが競技である以上、チームとしてゲームの勝利を目指すことは当然なのですが、これまで私たちは、そのことだけに執着することはありませんでした。

その理由は、勝利至上主義的な指導方針では、指示的な指導、能力によるプレーヤーの選別、心身の発達度合を無視した高強度のトレーニング等を伴うこととなり、参加するすべての子供たちの心理的安全性が担保できなくなると考えたからです。

私たちは、より多くの子供たちにラグビーを楽しんでもらう、ラグビーの魅力を味わってもらうためには、そのための環境整備が最も重要だと考え、子供たちに「勝ったから偉い、上手な子は偉い」という感覚を抱かせないよう配慮し、「好きだから来る、楽しいから来る」と感じてもらえるような指導を充実させてきました。

指導に携わる皆様には、ラグビーの技術の向上は、ラグビーを楽しむための数ある手段の中の一つにすぎないと捉えていただき、他のラグビーを楽しむために必要な能力であるコミュニケーション力、判断力、思考力、表現力、発想力、感情抑制力、集中力、目標に対して努力する力、等の育成にも注力していただきたいのです。

一人でも多くの子供がラグビーを心から楽しみ、その魅力を味わえるようにという願いを込めて掲げられた「スクールの基本理念」を忘れることなく、本年度も、皆様のラグビーへの熱い思いで子供たちの興味をさらに刺激してあげ、その成長をサポートしていただきますようお願いいたします。

## 2. スクールの基本理念

勝ったり、勝ったり、負けたり、負けたり、負けたり、勝つ  
たりの

全員参加、全員FW・BKが瀬戸ラグビースクール

## 3. スクールスローガン

---

**前へ (Go Forward)**

---

「前進」は、ラグビーの攻防\*1に必要不可欠  
チームプレイでトライラインまでボールを運ぶ  
1対1の局面では相手より1歩でも前へ

---

### ※1 攻防の原則

#### 【攻撃の目的】

トライを上げるために、ゲームの中では、①ボールを持ってスペースへ前進すること、②ボールを前進させるために有効なスペースにボールを運ぶこと、③ボールキャリアーをサポートすること、④ボールを失わないで攻撃を継続すること、等が必要であり、その手段としてボールを持つランニングやキック、パス、ラックやモール形成、等があるということ。

#### 【防御の目的】

相手のボールを奪い返して攻撃権を得るため、①相手に時間的・空間的な余裕を与えないこと、②継続的かつ執拗に防御し続けて攻撃権を奪い返すこと、等が必要であり、その手段としてタックルやボールキャリアーへのプレッシャー、ブレイクダウンへの働きかけ、等があるということ。

## 4. 2023年（令和5年）度 スクールの基本的な取り組み

- ① ラグビーのおもしろさや楽しさを味わう。（情熱）
- ② 思いやりと友情の輪を広げる。（尊重・結束）
- ③ 競技や社会のルールを学び、マナーを身につける。（規律・品位）
- ④ 心と身体をたくましく育てる。

## 5. 2023年（令和5年）度の指導方針

- ① 安全を最優先に指導する。
- ② ポジションにこだわらず、基本スキルの習得を第一に指導する。
- ③ スクール生の自由な発想に基づくプレーを尊重する。
- ④ 練習中の待ち時間を少なくし、効率的且つ効果的な練習に努める。
- ⑤ 指導員同士が共通認識を持ち、目的（目標）を持って練習を行う。
- ⑥ サポート指導員は、不得意なスクール生に主眼を置き、マンツーマンで指導を行うなどしてスクール生のスキルの格差是正に努める。
- ⑦ 可能な限り、メーリングリスト、SNS等を利用して練習内容、達成度等の情報公開を行うと共に、スクール生（保護者）との双方向による情報交換を促進する。

## 6. 2023年（令和5年）度の指導目標

- ① 長期、中期、短期の目的に紐づいたトレーニング計画の立案と実践。
- ② サポート指導員による個人のスキル上達差の縮小。
- ③ サポートプレーのスキル向上に重点を置いた指導の実践。

## 7. 各カテゴリー別の指導目標

- 幼児
  1. ラグビーボールを使って遊ぶ
  2. 大きな声を出す。
  3. たくさん走る。
  4. 手渡しパスの習得。
  
- 低学年（1、2年生）／U08
  1. 大きな声（コール）を出して意思を伝える。
  2. いろいろな走り方で走る。
  3. スペースの意識付け。
  4. 動きながらのパス&キャッチの習得。（手渡しパス、ショートパス）
  5. サポートプレーの意識付け。
  
- 中学年（3・4年生）／U10
  1. 言葉で仲間と意思疎通を図る。（ヒヤリングの意識付け）
  2. ボール争奪、攻防の原則の理解。（モール、ラックの習得、オフサイドの理解）
  3. サポート&コンタクトプレーの習得。（横たわってダウンボール、倒れたときの受け身の習得）
  4. コンタクト&タックルの基本姿勢の習得。
  5. ハンドリングスキルの向上。（ポップパス、平パス、アーリーキャッチ）
  
- 高学年（5・6年生）／U12

◇競技特性（攻防の原則）の理解+競技規則の理解+組織プレーの発達

  1. 言葉、動作、目線等あらゆる手段で仲間と意思疎通を図る。
  2. ゲインラインを意識し、前に出るアタック&ディフェンス。
  3. ラグビーの競技特性やルールの理解度を高める。
  4. ポジショニングの意識付け。（ゲーム中の意思統一、規律の確保）
  5. ハンドリングスキル、サポートプレー及びコンタクトプレーの成熟。（いろいろなパス、アーリーキャッチ、レスリングタックル、ダウンボール、ブレイクダウン、キック）
  
- ジュニア（中学生）／U15

◇競技特性、競技規則の更なる理解+組織プレーの発達+戦術、戦略の理解

  1. 各種基本スキルの充実。
  2. 体幹トレーニングによる身体づくり。
  3. 個性を生かし、チーム内での個人の役割を理解する。

4. 個人やチームの問題点を抽出し、解決策を考えて実行する能力を養う。
5. 自主性の達成。